

# 施策マネジメントシート

作成日 平成 30 年 8 月 31 日

施策	No. 20	いつでも、どこでも、だれでも学べる環境づくり					
施策 主管課	生涯学習課	氏名	河野英明	施策 関係課	教育総務課、図書館、御坂・一宮・八代・境川・春日居・芦川支所		

## 1. 現状把握 Plan→Do

### (1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇市民 ◇市民団体	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 笛吹市の人口<4月1日現在> 人
	b c
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇いつでも、どこでも、関心のあるテーマを見つけ、目的を持って自主的に学習する。 ◇自主的に講座を開講する。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 何らかの学習を続けている市民の割合 %
	e 自主学習グループ数 団体
	f 図書資料の総貸出件数 件
	g h
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇目的をもって学習に取り組んでいるかを、直接市民に聞く。 ◇自主的な学習が進んでいるかを自主講座開設数で判断する。 ◇学習に必要な資料が整備されているかを図書資料の総貸出件数で判断する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇まちづくり基礎調査⇒設問『あなたは、現在、何らかの学習を続けていますか?』 ◇自主開設講座数(新規):生涯学習課把握 ◇図書資料貸出数:図書館把握

			23年度 実績、決算	24年度 実績、決算	25年度 実績、決算	26年度 実績、決算	27年度 実績、決算	28年度 実績、決算	29年度 最終目標			
対象 指標	a 笛吹市の人口<4月1日現在>	人	見込み値 72,000 実績値 72,192	72,000 72,145	72,000 71,724	72,000 71,132	72,000 70,749	72,000 70,599	72,000 69,861			
	b		見込み値 実績値									
	c		見込み値 実績値									
成果 指標	d 何らかの学習を続けている市民の割合	%	成り行き値 23.0 目標値 23.5 実績値 23.1	23.0 24.0 24.1	22.6 23.4 23.4	23.1 23.9 -	23.6 24.4 -	24.1 24.9 -	24.6 25.4 26.5			
		e 自主学習グループ数	団体	成り行き値 44 目標値 44 実績値 43	45 46 47	46 47 55	47 50 58	48 52 53	49 53 55	50 54 58		
			f 図書資料の総貸出件数	件	成り行き値 680,000 目標値 670,000 実績値 668,352	690,000 679,000 647,805	648,400 670,400 581,467	638,700 680,400 540,915	629,100 691,600 546,237	520,000 520,000 521,642	500,000 520,000 487,837	
	g				成り行き値 目標値 実績値							
		h			成り行き値 目標値 実績値							
			施策コスト		事務事業数	本	30	30	32	33	32	27
	施策に係る 事務事業 コストの合計		事業費 (A)		千円	218,723	235,110	365,333	269,216	424,630	233,646	246,846
		うち一般財源 (A')		千円	217,079	232,092	291,855	264,479	222,872	230,022	245,184	
		人件費 (B)		千円	98,960	108,046	103,877	107,097	102,557	76,411	145,779	
		トータルコスト (A+B) (C)		千円	317,683	343,156	469,210	376,313	527,187	310,057	392,625	
		うち一財 (A'+B) (C')	千円	316,039	340,138	395,732	371,576	325,429	306,433	390,963		

### (3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

◇後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。  
 ◇何らかの学習を続けている市民の割合:成り行き値はH20年度から23年度までの4年間の平均値とし、各講座を充実させ、生涯学習の機会提供に努め、毎年0.5ポイント増と設定。目標値については前期基本計画期間の最高値(23.4)を基準として同様に毎年0.5ポイント増と設定。  
 ◇自主学習グループ数:成り行き値はH23年度実績をもとに1団体増を見込み設定し、目標値はH24年度実績値を基に見直しを図った。  
 ◇図書館資料の貸出件数は、H21年度をピークに減少傾向が続いている。これは、管吹市に限らず社会的傾向として、読書に費やす時間の減少や読書する習慣の後退が見られる状況になっている。H28年度の成り行き値・目標値ともに、21年度からの実績により、下方修正した。

### (4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

<b>ア) 住民の役割</b> (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇市民は市、地域、民間教室、大学等が主催する様々な生涯学習の機会に参加する。 ◇地域、民間教室、大学等は、利用者のニーズに合った講座を実施する。 ◇市民は学習意欲を持って自主的に取り組む。	<b>イ) 行政の役割</b> (市・県・国がやるべきこと) ◇市は、生涯学習の場(図書館や生涯学習施設)と機会(市民講座等)を提供する。 ◇市は、生涯学習の情報提供に努めるとともに、市民の取り組みを広報する。
--	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

<p>◇団塊世代の退職等に伴い余暇をもつ年齢層が増え、生涯学習、ボランティアのニーズが増えている。◇6図書館の相互貸出しなどにより図書機能の充実を図っている。◇施設の老朽化が進み、維持管理費が増加するとともにニーズにあった利用環境が求められている。◇社会教育施設管理に指定管理者制度を導入。◇地域の公民館を使った地域に根ざした講座(スコミュニティ講座)を展開している。◇市民講座の充実に伴い、自主講座の開設も生涯学習コーディネーターの支援により年々増加している。</p>	<p>◇市民から「いつでも学べる学習機会を継続してもらいたい。」との声がある。 ◇市民講座受講者からは、講座の内容について高評価を得ている。 ◇施設利用者から、施設の老朽化に伴う不満の声がある。 ◇受講者から、同一講座を長く継続して欲しいという要望がある。</p>
---	--

2. H29年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標値より高い実績値だった</li> <li>● 目標値どおりの実績値だった</li> <li>○ 目標値より低い実績値だった</li> </ul>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇何らかの学習を続けている市民の割合、26.5%</p> <p>◇自主学習グループ数は、目標値54団体に対して、実績値は58団体と高い数値であった。(市民講座終了後の継続学習の推進の成果が現れたと考えられる。)</p> <p>◇図書資料の総貸出件数は、目標値520,000件に対して、実績値487,837件であった。(生活環境の変化や携帯電話・スマホの利用拡大により、読書に費やす時間が少なくなっていると考えられる。)</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果がかなり向上した</li> <li>○ 成果がどちらかと言えば向上した</li> <li>○ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</li> <li>● 成果がどちらかと言えば低下した</li> <li>○ 成果がかなり低下した</li> </ul>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇何らかの学習を続けている市民の割合は、H25年度の23.4%から26.5%と上昇した。</p> <p>◇自主学習グループ数は、H26年度58団体と向上してきたが、H27年度53団体と5団体減少となった。H28については55団体と上向き、H29年度には58団体と回復している。(引続き市民講座終了後の継続学習の推進の効果が現れたと考えられる。)</p> <p>◇図書資料の総貸出件数は、H27年度546,237件、H28年度521,642件、H29年度487,837件と減少している。(生活環境の変化や携帯電話・スマホの利用拡大により、H21年度(705,115件)をピークに概ね減少傾向が続いている状況になっている。)</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他自治体と比べてかなり高い成果水準である</li> <li>● 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてほぼ同水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてかなり低い成果水準である</li> </ul> <p>比較自治体名</p> <p>甲州市、山梨市、甲府市</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇何らかの学習を続けている市民の割合は、近隣市において毎年同様のアンケートを実施していないため比較は行っていない。</p> <p>◇自主学習グループ数は、笛吹市58団体、甲州市0団体、山梨市0団体と近隣他市より多い数値となっている。</p> <p>◇H29年度における市民講座延受講者数は、笛吹市6,168人、甲州市224人、山梨市348人と、近隣他市より多い数値となっている。◇笛吹市では、各地区にコーディネータを配置しており、各地区で事業展開を行っている。</p> <p>◇近隣図書館のH29年度貸出数と人口一人当たりの貸出数は、笛吹市487,837点で6.9点、甲州市216,005点で6.7点、山梨市134,793点で3.8点、甲府市506,321点で2.8点と他市より高い数値となっている。(図書館の利用促進のための各種イベントの開催や館外貸出、市内図書館相互貸借の迅速化など利用者ニーズへの対応によるものと考えられる。)</p>

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒ 笛吹市の人口(4月1日現在)	(単位)	27年度	28年度	29年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目 a)	人	70,749	70,599	69,861	◇事業費コスト及びトータルコストについては、過去3年間の平均額とほぼ同じ状況にあるが、大きく低下している成果指標があるため、効率性が低下していると判断できる。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A/D)	円	6,002	3,309	3,533	
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B/D)	円	1,450	1,082	2,087	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C/D)	円	7,452	4,392	5,620	

3.最終的な施策の総括 Action

(1)達成状況の分析(理由と改善点)

<p>◇老朽化が進む社会教育施設等の修繕と計画的な改修が必要である。</p> <p>◇施設の老朽化対策が課題となっているため、改修等で対応が必要。</p> <p>◇施設の統廃合も含め、今後の検討課題である。</p> <p>◇生涯学習講座について、ソフト面で住民から好評を得ている。 ⇒市民講座事業及び1年を通して学ぶスロー大学の充実を図っていく必要がある。</p> <p>◇地域による公民館活動について、積極的な取り組みが求められている。 ⇒生涯学習コーディネーターを活用した、地区公民館での講座スコミュニティの実施等を充実していく。回数だけでなく、コーディネーターが公民館に出向き指導していく必要がある。</p> <p>◇図書館資料の貸出件数が減少している。 ⇒図書館に足を運ばせるための取り組みとして、図書館行事や利用方法のPRを行い、利用しやすい環境をつくること、蔵書や設備の充実を図る必要がある。</p>
--